



大阪府公立高校入学者選抜の「英語資格の活用」について

大阪府公立高校入学者選抜においては、英語資格(外部検定)の活用ができます。TOEFL iBT、IELTS、英検が活用対象です。英検がみなさんにとって一番馴染みがあるかと思いますが、英検2級以上で当日の英語の点数が保障されます。読み替え率は下記の表を参考にしてください。英検2級の難易度は「高校生卒業課程」のため、みなさんにはかなり難しいです。英検は年3回行われておりますが、**第3回の英検については注意点**があります。私立高校においても英検の活用を行っている学校がありますが、活用することができるのは、出願までに合格が確認できた場合に限りです。合格証明書の到着も必要です。**従来型の第3回の英検は、特別選抜および一般選抜には、合格証明書が間に合いません。**早い回の英検S-CBTをご活用ください。受験にも英検を適用したい場合は第2回など、余裕をもった回で申し込んでください。英検S-CBTを利用すれば、第3回も適用可能な場合もありますが、合格証到着までに約1か月半かかります。**日程等の詳細は英検協会のHPで必ず確認**してください。

英検には従来型の他、「英検S-CBT」というコンピューターを使った試験もあります。S-CBTで取得したのも従来型と同様に扱われます。英検S-CBTは受験日からwebでの合格発表までに約1カ月、合格証到着日までに約1か月半かかります。**必ず余裕を持った回を申し込んでください。**こちらも詳細は英検協会のHPで必ず確認してください。

大阪府公立高校入学者選抜における英語資格(外部検定)の読み替え率

TOEFL iBT	IELTS	英検	読み替え率
60 点	6.0~9.0	準 1 級	100%
50 点	5.5	(対応無し)	90%
40 点	5	2 級	80%

入学者選抜の英語の学力
検査の得点と、検定から
読み替えた点数を比べ、
高い方を用いる。

大阪府公立高校入学者選抜における英検(従来型)の活用の可否について

英検検定回	特別選抜		一般選抜	
	A日程	B日程	A日程	B日程
第1回	可	可	可	可
第2回	可	可	可	可
第3回	否	否	否	否

***千里丘中学校では、団体申し込みは実施しません。**

検定利用における注意点

私立高校においても英検の活用を行っている学校がありますが、資格を活用することができるのは、出願までに合格が確認できた場合に限ります。学校によっては、合格の画面確認ではなく、合格証明書の到着も必要です。12月末までの合格証を有効とする高校もあります（関西大倉高校 など）。出願以降～受験日まで取得できた資格は活用できません。英検を適用したいと考えている人は、英検のS-CBTを申し込む際には合格発表日を確認して申し込んでください。また、年末に近づくとうち大学受験に向けて英検取得を目指す高校生も増えるため、特に申し込みにくい状況になると聞いています。申込開始日も必ず確認しましょう。

英検以外にも漢字検定や数学検定などの公的資格を重視した入試を行っている学校（関西大学第一高等学校A専願、同志社香里高校、同志社女子高校 など）を検討している人は英検以外の取得にも早めに着手してください。漢検や数検にもCBTがありますが、CBTで申し込みをする場合は、合格発表日を確認して、余裕を持った回で申し込みをしてください。 日程等の詳細はHPで必ず確認してください。

受験勉強をする中で、中学校の学習指導要領の内容外の英検2級対策に時間を費やすことは、皆さんにとって心身ともに大きな負担になります。「英検2級を取りたい。」と思う気持ちもわかりますが、英検2級の難易度は「高校卒業課程」高校卒業程度とされています。英検対策にばかり時間をかけるのはお勧めできません。バランスをとりながら、できる範囲で英検対策をしましょう。あくまでも、英語学習の一環として英検の取得を目指して欲しいです。必ず余裕を持った回を申し込んでください。今後も、英検協会のHPで確認してください。

学校見学会・説明会へ行こう！

すでに学校見学会や説明会に行った人、申し込みをした人もいると思いますが、まだ何もしていない人もいないのではないのでしょうか。2学期以降にも見学会は開催されますが、時間的に余裕のある夏休みにぜひ学校見学に行きましょう！実際に受験を検討している学校に行って、魅力や雰囲気を感じれば、受験勉強のやる気の向上にもつながります。逆に、イメージと違っていたり、通学が思っていたより大変だったりという場合もあります。志望校を決める上で学校見学はとても大切です。積極的に参加しましょう。

見学会や説明会が予約制になっている場合があります。人数制限があったり、時間帯が分けられている場合もあります。気になる学校の見学会や説明会には早めに申し込みをしましょう。